新古今和歌集抄

二

特別
イ 4
3163
101(2)

貴
K4
3163
101/12

新古今和哥集新鈔

冬之部卷六

藤原資宗朝臣

○[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二字[illegible]

進夜光多[illegible]月海朝聲少溪林風

[illegible]

○たゝ世舟をつくるとかゝれたるなり　為家卿朝臣
あゝ世舟ふ舟をりたゝ世さをとゝひくを舟なり
なりたゝぶくるはてしるなりたゝ世舟ハのか
ぬさをみちハあれくおつをたゞくいりそまり

○月をうれへあゝ人をゆまさにたちうゝねの風のをいりして　後頼
ゆゝ山の蔭をゝ山ゝ影をりさりたるあなり・ひゝハ
をゝん山中ゝ人人をあり月をれくハ人をるゆまさゝね
の風のをくりしたる弥山の感情をひたゝをまり
山中の秋あゝ人ハあゝしのるゝりしてといひゝ
あゝなり

○本家ちゝ葉ゆゝく独のをゝをゝをゝをゝくゝ風の秋　為園
あゝハゝ葉ゆをゝをたゝりをゝをゝの
なりゝをれゝをゝ山秋と感しゝく深のゆゝをりく
をゝしさの秋ゝあるをゝをゝくあゝしのをゝ
ゝをゝをゝん

○本家ちゝをゝ風をゝ白ゝ独ゝをゝをゝ成ゝく　通具
紅葉の高秋ゝをゝ山ゝ山をれゝ白ゝふゝをり

○ゝゝゝ

[illegible]

秀能

○山里の風すさまじ夕暮よりのこりなく物うき山ざとの
木の葉ちりしく心ぼそくしぐれのみ
[illegible]

被詞成茂

○あのさくら山もあらはよりのこる松さへねはさびしき
[illegible]

○[illegible]

[illegible]

西行

○月をまちつるたのみはかなくあけぬるかの
心あるうへにさはぬるの[illegible]
月をまちぬるこれをこそ[illegible]

なりとぞ。ゆえあるたるものの心ふかしと

紙国

○これの国は、そりの山城の元八のゆり社の杉の下義八
杉八ゆえなりなるこの世の第一たるべしあら尊
しく本八ふとく、くぐもりしてたれもあらそ
神なり。そなたなる国をよりあらそりく
ちてれたるとんくゝさるべ八のれさるそり
心のくちみいはうくゝ。かくしんと思るやう心
のゆえどうめくろ俊の天の天なり紙し紙
まくゝ。ゆえ俊に俊成
心ゆえ紙ゆえんと立田山杉八ゆえれよめまるものゝ云

美国

○やとゝこれ杉のゆえ神のかゝり世本のこのくらゆとなまま
やゝまくれゝゝ杉国をしひけさゝ行なり。杉国を
ものとうしたゝしこのむゝのなりゝゝ祀のな
ゝり世本の紙の国よりをうむつきてゝまく
れゝ国ゝくよめり神をおの海のゝむゝとゝ云

太上天皇

○物ゝみゝりあらそひゝくいるゝゝゝこれのゝゝ杉杉
神国の杉杉大和の名ゝ国なりゝあゝそひゝくゝ
ゝくれゝ杉ゝのゝ也。杉国八杉をゝめんゝ。杉ゝ
ゝゝみゝゝゝゝてつまれゝゝゝおゝゝゝゝゝゝ
なるまゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝみゝゝゝゝゝんと云心をゝゝゝゝゝゝゝゝ

人丸

○[illegible]

○世中小[illegible]の月のいてやと思へ[illegible]

源具親

○[illegible]

○[illegible]

二條院讃岐

○[illegible]

ありつ時毎のこのうたとも也

家隆

○係ていそしい神よりうんきとれすなわちあり行きの月
月を係るとそしてくろくそいはてくろくそうかたの
そうをいはてめてのこいくくしい神よりくろくそは長和とあげきあるす
とそうを感信の神乃家あり氏家よやとう月けの
しくろれくそんくまそくそれそくゆくそうくろうの
心をいくくしい神よりそうくんそいつりそこの和のそれ
りそまつるそ乃神也

○そうをうの新と称よりそうくそうとつくろうの山のそう乃月

奥歌

物をくく月をくらよ月のれくくくくゆくろよりくと
月の四歌あるたくうをくくくく

秋よりくれ月をうるるなり　雅經

○秋の色をそらにいそぐやうなれば月の影のうつるまもなしの歌
下男の秋の色をとどめんとて今は上男の月
高の枝をとるなり　秋はつるよめり

信濃釣殿

○冬枯のもりれば桑の葉のとぶらふ月の新のさやけさ
はるかさひとさまつる月の新のさやけさ
月新世さやけさあり　冬枯桑葉
白雪かはるく　紅葉あるうつり　時雨
雨のとふるやうなりとつるるうつり　時也
うけのさやけさ　何をあるものれとうひさうら

このなり　後うつる月入あるの月はあるうつり　桑上
梢さうつるをあるく　新のさやけさ　梅
ちるうつり

霜露既降木葉盡脫人影在地仰見明月

通具

○あひすの紅のかくるをこそ　けてねるよ月の新のうつるやけさ
おいらけくねぬるくいふやもく　移るまぬるといつり
あひすもの紅なるをこそ　月をさやけくうつるを移るまぬるの文
月をさやけくうつるを　おけるく　移ぬ新のうつ
ありり

源重之

○あかりれ花のたれはうれまりしまのしあるはそまあるうつ

太上天皇

○あるの殿おとゝきろ祇めさぬ袋ゝのようものゝ
源氏まきゝ桃をそゝそゝそゝ出るの花葉
まゝよ源ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

後成女

○新古今ことしもとなりぬ秋の夕暮
校衣の袖
「秋のくさ〻はなのうつろひ過ぬれば
秋の末は袖乃露を拭よるもとと
しるべし

○夫れ花とは白雪を下美雪とも花とも
ちらハ花ちくとも心なりとけるよしを
付くくるくるくさなり秋の袖ハ涙のことあ
きらかなるべし よいさうは美よ
秋のむしをふるとの下露をいひそ
心なり哀をもよめるなるべし

○はの國乃難波の芦ハ葉ハ芦のうれ不風もうるう
心なり芦の也はの國と難波といへたあなり
難波とハはのくにとも云心なり芦のく
のけ乃ゝみいてゝ芦なるもしを拾遺
なりたるハ一時の愛なり芦のうれとも
て美ものをかりゆるとと云なり

西行

○ふるきの神乃氷をむすびてねぬ〻ゝ
氷のしたをくれてけてこそ
なり愛そ又神愛なり愛の和
ゝてはのゆくゝをいかゝそれを行らめ

桜政殿

まつ、ちひあーはるて・いめうこうあれとも
うつくしくとそめれとを花をけうけうとも義
うつりてうくさとあてさされて也・又はは語て
引 月夜よるさ花のてうふくく新の京はまうつくしく
新の京のてうてうくさと兵庫て也花を
同心なり・又遊興秋也のはれ方て
引 春日殿の御ことをやらめの東嶺みーかくさ花の綾原
花を同心なり面しとはあてうさをものなるへし

家隆

○春霞浦や遠ちうはは法名ちうはるはるはの月
引 はちうはるはは面に紅や秋ちうん遠ちうはは乃ちうはるは
引 秋乃みさいと知ちあ山のくちちうはるあけの有

ちきうのをうひすは秋て出ちとへけうはうこうはうて
はくくちうはうはうはは面の出ちうはは月ををへし

能因法師

○ゆふされは風はくみちのく松島の玉川海よつてきくあり
ちの心はあくくなり・松島の玉川海よつてきくあり
なり・うはあの夕風ふちうはうはうはへの秋とあり
のまくふはひはくをちうはうはちうはは花上はのまくをあり
花一枝なり・無秋を心よはうはしをあはれも
をを岩根よちうはくはくはく

それにくらべてひとりかなしのみとのたまぬ月をこそいとりもちる風をこそとつぎかて

きうるふるさとひさしくなりてふるさとの人にいとりてふるさとのあるかぎりとはねよかりんとしてあるかぎり

秀純

○問ふくるまなかるこれをいとひ思ふ涙なりかさいとはるこそとせてもる風よりもれくるかなそりもれを思ふあ涙よりそまりひ思ふあとはるこそあるかぎりとはるかぎりなり

陽原王

○ふるさとのあるこれはのるよそれ時なるかぎりなるのようみくるのあるをいとりふるあ

川たとりてこそあるさはなる中よ新なる五代

略のあるよりこそ時といとりふるはるくハ

源頼政の心なるこそ

世武新

○あれはのうこそあるこそ世をきらくこそ庵よ結ぶ新雪

ひとりこそ前よあるこそ時とこそ義世世こそ

ひとりはるこそのあるこそ世雪こそきらくこそ

はるとも世雪を日うすつもりあの法くしこそ

世はるうるくハ神雪とこそ心はるし

こそ雪ハのこくしくてこそ奥きるこそのなる

ね心こそ雪の積ると思ふこそ世雪こそ

分こそ引合こそよりあり雪の清るよ我分の清を

ろんなり

世をうれたうきさそまされみよしの山の谷道さそまし　てん

晴雲たれ空をおもとり果めぐる我分世なり　道因法師

寂蓮

○ゆそひろけさたよ人のゆくられぬる山の里ぬ雪のゆふくれ

閑居山梅のうくれ部を初雪をよハ雪くさむ雪ハ

行りろきとをきさ雪ハ行のしくハ什そろ雪をそさ

しさんてりをゆんせそやと思ひ心そりてそのの

めぬ人をりや此雪よ雪ハ行んとさたるそりそ雪乃

雪丹ハ行ろんをそこひ雪ハ行ん行んとひさ

しくぬろこのなりしけさたるしくぬろ雪の心

なりし雪のゆふ雪をいつるハ雪ろくなりての

ゆをそる世ゆふの名雪乃ゆ行くハ雪ろ行ん

不絶くゆの行雪ろ

藤原國房

○さひしさ秋いるよせよそくそ雪ろ雪ぬ雪の雪

野と雪をと雪よあしくろ雪ぬ雪ぬ雪

さひしさハ行しくしくろ雪ぬ雪

ワ心いるよせそくそ雪ろ雪ぬ雪

秋そくさひすや

定家

○雪とあて飛ぎそくろ雪をのしさのくりの雪のゆ雪

秋の雪雪の雪の雪の雪の雪雪雪雪雪

るふいくんや雪の雪雪雪雪雪雪雪

雖ものいはぬ草木なりとも
ものいふ人にまさるこころ
ばせをもつらねたるものか
いつくしきいろをあらそふ
ひいでうつくしきこころ
ばせをもつらねたるものか
ものいふ人にまさるこころ
ばせをもつらねたるものか

同

○まことの人の道や行ひをもつとめ
行ふべきのみちとの道とは
何ものとまらぬ行ふべき
道とは行ふべきの道とは
なにものとまらぬ行ふ
べきの道とは何ものとまらぬ
行ふべきの道とは何ものとまらぬ
行ふべきの道とは何ものとまらぬ
行ふべ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

てらの本尊

みちのくの白雪ふみわけて都人の音信をきく

又流水野の中の隱れ高き遁世あり[illegible]

平の[illegible]月よりしりてこそ[illegible]

[illegible]

[illegible]

○昔男ありけり　世をいとはぬ者の言葉

[illegible]

[illegible]

[illegible]

神ぞ人老のあとのあるとあり老ほどをかけくんかな
問つゝ妙也

森蓮

○老の波をしけう分くて出て生れつるを今ハすゑのまつやう
「老ぬとぞきくあるかぎり心とゞまるべきなれば」
しらぬ人ハ来とひとりひけくまれハ老の波をしぬとれ
きくもうるあり

頓寄春七

仁德天皇御宇

○たかきやゝのゆてこれを煙立民の竈にぎはひにけり
たかくやハ樓宮かたのゆもゆとれ物ゝ思ひめるゝ

して民の竈のきしこそ絶うきくるうる
世の家のかまりを海ゝ人数のうとんゝ五月
一月十日一面光の世のうるこのあふこまれり

淡人不知

○こゝ月のうるねをよのまつるをまるゝ
世の悪なるのの上人の家のうつ嘉穂の氏体ハ出のの発
世ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ
まりくゝうてうてこうるて氏海ゝの波をまるゝひて物
まりてゝくゝとゝまれるゝゝゝ淡人をゝゝゝ
うくゝうくゝとあけくゝうくゝうくゝうくゝうくゝうくゝうくゝうくゝ
ゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝ
うくゝうくゝうくゝうくゝうくゝうくゝうくゝうくゝうくゝうくゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

よくとよいてくとへ色[illegible]ゆうと[illegible]のうくふ[illegible]

よみうり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ぬ[illegible]のたにくいあるものとありしもちろん
しくたよりなくなりとそうろうとれとも思ひ
名をわすれむなしく有ればこそ今の世いたつて
このをまりあまきいにしへよりとのへいあるべしと思ひ
そぐりくみちよりたくさんなきあるよりこのの
をくあるさかりの清輔朝臣の字を拙心せらまし
ぬ[illegible]へくるのくつひくまよりつくせよなりあるく
つあるをいくと波田せられしありさるをうち
川のりまりをとそむよりをへてうちをうてる
あるしと和をつきうこあるり本ないい
[illegible]あるうこ清とい思ひのへめれは

指政殿

○[illegible]の前しのうれ本の義あるこ春うけへは
本ない 補陀洛の南の岸よりあたて今うこんかの義波
南園堂を禁院たち大臣達られ附春日大明神の
[illegible]とうくもちくにくを数民の[illegible]昌とと
[illegible]たまうへし

祭主補任

○あるぬさす朝日北星のひかりよりのあるのうこ
朝日の出るうこのあるきれを拙しるのよりん
あるうこをり又日うけまというこくく朝日のさ
そいつりいつまうこを序こあるり日うけるよ若を
つあるり神系乃時神人うこよりうこのあり
古今にあるりのうとの人とをみるりよこの

[illegible]

○神代のことは[illegible]
やはりとゝ八事あり稲をゝ[illegible]
也田とゝろハ今日の大[illegible]
あるゝんかよいと也稲春とゝ天照大神へ[illegible]
[illegible]

長傷寄 巻八

僧正遍昭

しすゑの露もとゝ[illegible]
末の露とゝ稍の心をよ[illegible]

[illegible]

○[illegible]
[illegible]

大江知元

○[illegible]
[illegible]

○[illegible]

和泉式部

[illegible]

分とはいふ説もあれども秋風の言ハいかゝ
はうきとも思ひ
くんろうとも
くんろうとも
秋風ハ秋やんろうとも

後撰集の詞

定家

○恋のゆく末を涙をそ海ちをなき人おもふやとのあき風
恋ならぬ恋の
たゆるゆゑ
涙とつゝ
いと思ふ

涙の海と
思ふ毎の
秋野の

きけ
毎秋風
いひ
秋風
ち
秋
面
やう

日もく
涙とあり
よ
ひ
ち
ち
ち

[illegible]

太上天皇

○[illegible]

面中の[illegible]

[illegible]

[illegible]

きらぬ人のなりゆくすがたをあはれとおもふ心ばへ
をのおのうの花のうへにとりよせてのうらに春をしたしみ
のうらに春をよそをひ人々あそびをもてあそぶ
しるしとあるべくぞ侍らんめる

恋四

○蓮生法師のうたとて家の内にあるあまの白布の
いかにとくべきとそ思ひ侍りしかはとひとしてをのの久言あ
きのなかれをとそらぬとうたへる也

左京大夫業平朝臣

○白雲のたえまをいとはぬ人の身にしかはとしてをのの久言あ
かなしきよりはうたてこそ侍りけれ

なにとなくうとましかりし但ひとのいはやとてゆきてこうちして
ひとりねられしかはこれ心ハ白むらくやとん
とおもふ心なりうたの出所のよしをあらはす
もとやまくるしきひのかなしきこころ
なにとなくうとましかりしひのかなしきこころ
今のとりのなくこえをきくにつけてかなしき
業平朝臣

○あるあまをあはれとおもふ人の世のあはれをしりてうたへる
考云紀友則よりのうたと言あるはたゝ人にて出家したる
おなじ心なるあまの身をかなしみてうたへる
とよりうつりかの上とそこにもそえ人の去
ことをもとをもてうたへる

あすをもしらぬ命にまよはれぬるこゝろを思ひ
はかるに母よりそれこそ世の弱くよりあるこの世人の
世のあくれとそるるこゝろをいかゝ
のことをうくるひとこゝろあるこの世事情
こゝろをくくあくれあるこゝろなり

離別部 卷九

公式部

○世の人の翁よりつてよ雲のうかるかとのこゝろをもて
雲のうかるこゝろをもて文かたらんし心ゆきてを
しらくてこゝをもてせしこゝろなり文とは
こゝろ文上巻雲東とこゝろをけいあり

中納言通俊

○逢坂の関よりつゝ者かりの女はあるこゝろ人はなのこゝろ
ひさかの人の報者の常住壞空のこゝろ
こゝろ人おもひとおもひこゝろ
こゝろもあり坂とこゝろ
人こゝろのまゝとこゝろ伊勢物語よ業平
よあり坂乃関いこゝろ
おもひこゝろ逢坂の関あり今こゝろ
ひさかの逢坂なるあり引こゝろ
かゝ坂左衛門

○ひさかの人の人はこゝろ
ひさかの河こゝろ老たる親の七月十日ばかりこゝろ

[illegible]れまんかと思ひくらかれ
[illegible]舟よのなかをうつしけると
あり。紙[illegible]天川をけらしく
[illegible]
[illegible]ひあんとかりくて
[illegible]
[illegible]
[illegible]舟出[illegible]は
[illegible]舟出[illegible]
[illegible]
[illegible]

定家

[illegible]
[illegible]人のいつ[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

續旅亭卷十

元明天皇

○龍門の里[illegible]
和銅三年三月薬師寺の[illegible]
[illegible]
薬師寺[illegible]
[illegible]
[illegible]

今物を語くれひいてくるそさいひものさ
ちくとさうくなりて又ものさのそを行さて
とんくいうむものしくなりとさつるあくわなり
[illegible]の[illegible]のあなるきい蜜情うくあくれ[illegible]霧[illegible]
ちさなるくひ[illegible]画をそ多く[illegible]ろやうう
ちむへ

○東海のさかの中山さやうにそをそ井よりやくくさん
さかの中山なをいりくさやうるそをそ井
うはかをそるかよりあやふさ海のりをそ
はくさんさはしまこのをそはくちんり
かりまり

恋歌

女清撰の歌

○人をそ恋ふるあくやうにをるありやうくなるをきくもん
有やをいくんとくく歌をといつりそかんをそをねる
恋人をうくみへくやうくをくあり[illegible]かくいさく
ひんのかをうはくくいり

大納言強伝

○歌はるあれまろやのさじられいれ本ありつむ舟いくくも
国土八幡伝つの幼り也[illegible]の心は彼の本[illegible]歌人の有る
あくされれ本ありつむ舟とくやくくやれ
歌人ををくさんとなりをいりうの心おれ
なう様をりあり又一伝歌有のさひをこる本
ちりつくくうるあるくくこるくんいそけ

云心也歌つゝ木と来くゝ心ゝ

梅雨仲朝臣

○ふるゝ人をうゝのうゝ風音世ぬふつまゝくゝまゝあゝ秋のゝ月
とゝのゝくゝかゝゝ雨ゝりゝ千ふのゝゝゝあゝをゝといつゝふゝ
とゝのゝくゝゝりゝあゝくゝ出すゝこゝをゝなゝりゝくゝ風
の音世ぬ風の音信を世ぬゝくゝいつゝるゝ世雨
仲みゝちゝの出よ信をゝ世ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
とゝゝいゝてゝくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]
のくもゐ[illegible]
[illegible]
[illegible]

西行

○[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

同

○[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

家隆

○[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

あり月よりひろく中納言忠通卿より

雅経

○春のそらの面影さそひくる月ゆゑうちなびく秋の中山

ひさかたの中山いまは後洲の流なり藤のハ伊川をうつしてもいまは中山

ちかくなりてとなりの里よりかすかにうつるなり藤の行よりくハ月

の里よりうつるなり藤の行よりくハ月ハ月のかよひたのむこゝろ

をもあれとも必道へ通ふ藤のもとにハ月ハ月のかよひたのむこゝろ

さなりとあるくもあるもといつくんよりしらくもに付ての心なり

○春の夜のかりあけぬとなくこゑに月ハ秋の山のよこ雲

月をいとくもるもをしむこゝろなりうつるくるけさあるすゑの

ゆくすえの海ハ月をうつすなりあれとの月ハ秋の山のかなたの

あるこゝろをもとくれといつるを惜ふくるやの

秋の山ハ月ハ秋の山ハ月ハ重山峯

嶺嶺をとありあけの月ハ秋の山ハ月ハ重山峯

かくのこゝろなり

後成

○かすてをあをいくまもあんしの苔の緑のひとつ

けさ立つ雲ハ月ハ雲ハ月ハ雲ハ月ハ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

なりぬるもてうかりぬ夕陽の明るき影りの海
ありぬいつくみる高をうくむ〜そうそうなる村
雨のあるとうくはたのちうさにかをよりう

家隆

○春さめ〜風のあををすまぬかをわかれ山
はこいろくい嵐さへ紅にくさ〜るいそう
これいかなるあつりの友とかうるものあるむ秋い嵐
と変〜〜雲とやくしてけるものなりけ
云ものもてろ也あ〜〜の春をたくりう
ちくうひ〜〜うくれ。ををも〜〜古人は
うきねとうゆかなる心なり
あ引ちのさやの中山なりくる

さやうさやうるかをもつくくなり同ふる
ようく〜さやくくをけるともつくしくなり

後成女

○春をも秋ふかくこけるくに風のこをもろ小野の玉乃家
をのくこの家乃秋風ふるこの秋ゆ人をもう
にくもとかりへいやくくあるこのうくこをふ雅乃
このりくりあるくくををくをなり

雅経

○ふるこけるこやあさ毎のゆ小雅里をひくあるをちこ玉乃山
後間よ遠遥とさもむるの八海雅和徳よりかくれ
ゆるれ山のくりをけこのこくくしくかりひて。
けたくるよあさまのるる山よをちろ雅ふれと

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

宣秋門院丹後

○[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

藤原秀能

○[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

家

○[illegible]
[illegible]

やわらん不復のこゝろなり

暗長門

○梶そくいつまの浦ふちをうんりとうれ野人のゆ雪
本ノ世中ハいつまとうちてワるゝんうあるをうやゝうちむう
よ方ゝ子の中いづまとゝしてうたゝむうなゝひなゝさ
報乃作あり

民部つ成範

○みちのくぬまの玉藻よ波ゝ絶て行ちゝとうりゆうう那
ゝのハゝく中ゝうゝ玉ゝの玉藻めつゝくよ
めゝる何なり波とゝてむうゝとゝあゝくゝうゝ
玉藻のゝなゝきゝ波をゝうゝ心をあゝ
潮風ゝとゝひゝ人ゝ山の風ゝ糸ゝ行ゝみゝく通ろよのり

ゝまゝ
偽よのゝゝ心ゝうゝひゝうゝ今世

宮家

○ゝ月ゝ分ゝ波ゝつけゝ中ゝくゝいゝのゝくゝの宮ゝ家の秋風
ゝ子のゝゝ玉ゝくゝいゝのゝの宮ゝ向ゝ中ゝてゝあゝり舞
ゝ月ゝ中ゝあゝれゝ中ゝくゝよゝ波ゝゝれゝゝゝせゝうゝゝゝり

家隆

○紫ゝ雲ゝ波ゝ中ゝ波ゝ月ゝ分ゝ波ゝ中ゝあゝうゝ宮ゝのゝ
ゝ月ゝゝ中ゝ波ゝ中ゝ雲ゝ雲ゝ又ゝ波ゝゝ中ゝ
たゝうゝ宮ゝ分ゝ月ゝ宮ゝ中ゝ雲ゝ雲ゝ宮ゝ波ゝ世ゝ
ゝ月ゝゝ中ゝゝうゝゝうゝゝ波ゝ雲ゝ波ゝ世ゝ
あゝとゝの波ゝ宮ゝの月ゝ波ゝ雲ゝ波ゝ世ゝ
宮ゝ乃ゝゝうゝくゝゝうゝ波ゝ

○意ふかのゝ人を赤の松ちゝん祝よ信やかく歌ん
本の松ゞ中の松赤の歌ゝ
それとけうつよ赤の松ゝ云也それい赤の松山
さいゝゝく松ゝゝをよめるゝゝや

同

○さすらゝゝ口ゝ名ゝ行ゝあれいさきゝくゝや宴ゝ紅ゝ葉ゝてゝひねぬ
ゝちゝゝゝゝゝゝ俗傳ゝゝゝ詩ゝゝゝゝ寒ゝ
ゝて赤ゝゝちゝくゝめゝすゝあゝりゝくゝなゝゝゝ。さゝゝゝくゝまゝ乃
宮の松ゝよゝゝあゝりゝゝちゝゝゝゝゝゝ

とあるとかくあるこゝろをひとつぬとわれはいふ海
岡のあるこゝろをわれらこゝろ者とこゝはさはらん
ちれども者とこゝはゆくせとそりうけの山ハう
つとはいふこゝろあり此よい岡あるさまをあれて岡
とはまくすこゝろあり海とこゝ風流なる海をいふ
慈圓 おのこゝも
法の実義をこゝろあり波の高とこゝひとつこゝ有とこゝろ
こゝよりは是ハこゝろをこゝろ也

宗教

○神も今や恵とうけの山ゆ雲さらはこゝのしたなるち
ちかい山ゆ雲なきいなをこゝろ
神ゆこゝろをもつ何らこゝうあるこゝ也と思ひつり

暗長明

ある心也

○神にはこゝ月のこゝれこゝろこゝろとこゝ深くこゝやうはの山紙
宇治の山をこゝむ何ゆこゝうよこゝ海こゝかこゝむこゝ
こゝろこゝろこゝろこゝ消ハこゝりつこゝんこゝこゝり

慈円

○雖雲山秋ゆくこゝの神こゝ見こゝよこゝの情こゝこゝれこゝこゝり
秋の人こゝ残ゆなこゝこゝ山こゝ神こゝ山こゝの情こ
こゝこゝこゝ神のこゝこゝりこゝこゝ

西行

○春たけくこゝ又こゝ思こゝこゝや気こゝるこゝのこゝの中山
伊勢の中山こゝこゝこゝ桜こゝこゝの何

たちまちよむなりと雨と人を見るひとみのこゝろをこゆるこゝろぐるまれそうなりうんし

太上天皇

○ふるゆきに山風ふくあらしのなかをいかに春をまちなるらん
みるまにしるしの清香のうらすゝ眼おゝ端的の
風流なりうんし　懐懐のれ〳〵さるよしそれ
ゆるもいかいよさむなりうんし　とかりし
やられそうはるこゝろありうんし

新古今和歌集新鈔

憲哥一

影不知

讀人知

○ふるゆきのこゝろんてやみるうんこのたゝ〳〵れ山の峯の白雲
ふるゆきのふるゝきゝるあるる雲の立てゝもわくゝを見をゝる思
第二の句はくゝこゝろうんこゝるこの也代あはうし知の
しのあるれを秋をるうんをばゝうにのゝ
てやゝこゝむさゝくいうんあうくゝとる人物
横なるうんし

人丸

○夏衣山田をる露よりうしの下もれつゝ秋をゝくは

ひのつ[illegible]くあり[illegible]廉火・蚊火のようてうり
ゆり蚊を火いさてよくゆらすものなれば
よあるうりや若火山田をくゆかをはじろ
うさゆくゆくゆくをいつり

左京業平朝臣

○[illegible]の[illegible]のつ業平[illegible]
伊勢物語のしくだくこのうたきもしゆり
もがの里ふれんぶ文字よをけつなりうり業
とは文[illegible]をくいつり業八[illegible]
ふれんがくいつり序なり[illegible]のみこれ
こりなりさくいくもとめなりこのみつ
まとふこのよりのかりの後こうれる

物ふれどそひのみこれをそへるあるをうり
もられどそふれりひのさかまりをみをさをふ
なり

中納言兼輔

○みつの泉やさてふ泉河いつくきそくうをてかうん
ふつの泉・泉川・泉せ山なくて山城国相楽郡の同
ふの名ふなり泉川いつくきそけこ四句うれく
しくえむよりつ
つくくふのなり泉河をそうり
つくといつり山りをそくつ川
のくく海のたさり海ごといつり川をその
これしくふいほそれ泉をれもかくふくか
つくふりうれそれをひそへてをかく

○はるくさのはなのかげにやどりをしてかのやまぢをこえぬるかな

源重之

古今の序よりはるくさのはなのかげにやどりをしてかのやまぢをこえぬるかなとよめるなり

けさはなのかげにやどりをしてかのやまぢをこえぬるかなとよめるなり

いらむとおもふ心ぞ思ふ

らをこえ

○霞のうちにはるくさのはなのかげにやどりをしてかのやまぢをこえぬるかなとよめるなり

藤原興風

はるくさのはなのかげにやどりをしてかのやまぢをこえぬるかなとよめるなり

○はるくさのはなのかげにやどりをしてかのやまぢをこえぬるかなとよめるなり

中納言家持

はるくさのはなのかげにやどりをしてかのやまぢをこえぬるかなとよめるなり

○はるくさのはなのかげにやどりをしてかのやまぢをこえぬるかなとよめるなり

はるくさのはなのかげにやどりをしてかのやまぢをこえぬるかなとよめるなり

○はるくさのはなのかげにやどりをしてかのやまぢをこえぬるかなとよめるなり

はるくさのはなのかげにやどりをしてかのやまぢをこえぬるかなとよめるなり

○はるくさのはなのかげにやどりをしてかのやまぢをこえぬるかなとよめるなり

拾遺

はるくさのはなのかげにやどりをしてかのやまぢをこえぬるかなとよめるなり

○はるくさのはなのかげにやどりをしてかのやまぢをこえぬるかなとよめるなり

はるくさのはなのかげにやどりをしてかのやまぢをこえぬるかなとよめるなり

○はるくさのはなのかげにやどりをしてかのやまぢをこえぬるかなとよめるなり

はるくさのはなのかげにやどりをしてかのやまぢをこえぬるかなとよめるなり

あ〜〜といつり・ま・て・ふ・と・ち・ち・ま・こ・ま・ど・ど・く・な・ち・り・ま・ち・ち・ま・ち・ま・ま・ま

氣を絶なんとせしねといつてあらられだいなるの
あはれなるたくんとなりくまの心なりよりりをう
まるるこゝの米のかいい法実してうり考よいよりり
こそいせめこしろくへてこそ絶めきそこの山の色也

同

○ものをもてゝ新あけぬるゆめくれのこゝろをりてこの月日と
もれのこゝろりくとてはくまのゝ人をとゝろう
されこゝるまあくしてもつとこゝより心なく
きこしかり

○後名残こゝろをしむこゝろ移りもそこのむ心を
つくこゝをしみてこゝ又いつと思情こゝろ

物者を一向よ形ぬ絶ても絶ぬこゝをれこを
物こゝと形む心あれは絶んこゝもこゝぬとなり

よもの人こゝ考

○面こゝいたのこゝいこゝらめ形こゝぬ人こゝんて絶やこゝ面
世俗よ形むまなこゝるとこゝをこゝりたの
むよこゝりこゝりこゝあれ一向よな
たのまれこゝくなり形こゝ物事の人こゝ
ありこゝくこゝれよ絶こゝくこゝ思やこゝこゝとよ心なり
やむこゝい面の絶也
引後人のこゝこゝくこゝ立よ形本かい形む絶こゝ如来こゝ
此こゝもたのむこゝかこゝこゝこゝとよこゝるなり

伊勢

○[illegible]

[illegible]

[illegible]

この江を郷とそよ世くよめり昔うりひとを
みるうしうり
枯けくいひあるこもわらうくに表ものうきくはう能
新殿人のれる江毋ゆ枯てそん童ものよ分とうらけ
家の心いはのにうるうる稲ゆ新のみてぬとえてうる
にのにうるうる郷ものさひのくれやらぬと
なり新をみをゆーとい系ゆよ男ふすとどみきま
しうよ色り毋なるり系あるくく心のううさ家り

同

○小草の表れ系をいとーゆ作ゆ系紙ひむーゆひ
れううさのううさ江のみ系りを系をいをーとうの
うゆくく文ゆくもゆるゆるもるくなりてのうる

しうくゆくうる時ものううり作ゆ系をとうさん
めうさうものあるひうりくるゆーきくゆるひ
又ゆくくるるくなる稲ゆをれゆい系をるり
こ男ひーこうゆ心をいさものうる稲ゆるくーれを
とうりて陸ゆるーゆくうるいひをれて系
迷をるゆ文ゆをるーなる心のなるくー

同

○我神小郷ゆうけうる屋ゆうあるゆかくーみくをるのん
島の迹をみくく文ゆを作ゆうゆくゆれて我ゆ文を
のゆれゆうくーゆるーゆあるゆいかくて行
をいく文ゆをくくゆるのくーゆるーゆ迹悲ゆんを

義尋元年

○霧こめり心をうけぬそのの池に秋更てうゑく沖の一こえ
山家西の秋いなそのの秋の雲さえあつて池をしく秋
はらう〜をとつひとくうう音松をひとつあつなく
ひるし下のいいしくはるこ紙をの秋こそ
のうくとうて誓のつうひあうさんけあそのさき
はをんうのくいいはるれうれあまいいとう
ありうこう心なりとこ〜いを文ぬのちう山うさうを也
山門に秋行りあうこ〜ぎりの心さら海く山西の池こう邪
秋をこをこれをこをこうけいこうるこひをあくるを霧ざをらん
こ〜多のうこうれの家やあまめくんけるあまこうこうこう法
義系寛方勧長

○いうこ見こくめ海の橋のまこ山こりてこをこめ方こや成ぎん

久米路の岩橋の事。昔文武天皇御宇役小角しく
使鬼神あり。金峯金剛山の間に岩橋を渡さんとして
かの一言主神とめこうひてけこ。其形醜事を恥く
和らうこ〜多ゆ〜こけうふ和のよきう
わのうけぬるのこ〜こいつう渡ぬうをたりひの
うけぬ方こや成るんいこ思ふこう
岩橋のうあうこうを絶めこ〜ひるうひさかつうこの縁
うこをよりり

○雅うけこ三の桜をうらるこの枝のまれをうけぬ
女の枝のこをつくをこ在はうれこしこ事こ
我庵いこわの山こ〜ひこ〜こうこと本こ

してよりてあるべきれいこのひとりとをもちゐぬ
をもうるべきは心の根あるべくは出家をもとも

墨林好忠

○無名の武蔵の国に舟橋をかけわたしたる道の
中の門波おらき荒れたる野辺也心は大海へ流る舟橋
のありさまは俊也舟のしくしく部也
後の形ありさまは思ひもよらぬ事ありたけしきめ
いりめしさおもしろ紙しく思ひしくしくへ

拾遺殿

○橋と為後中納言の漢より高砂の松のなりをもちゐぬ奥後堀風
橋とをえいづくとをれさめなる心なり中納言は
ありなりをみれとをさす海より中をとて

なりうのしくしく家をもの中のなりをもちゐぬ
をもうるべきは心の根あるべくは海干あるべきのなれとやう
四十心なりをいつるも本歌
本　いしのうへにはやうる舟をもちゐぬ
月　橋とをえいづくとをれさめなる心なり中納言は
舟をもちゐぬ海のうみよりをもちゐぬ舟へ
後撰　海の海とをもちゐぬ

武蔵門釈迦

○をもうるべきは法華経の舟をもちゐぬ八重の塔婆
仏の舟をもちゐぬ八重の塔婆
をもうるべきは法華経の舟をもちゐぬ
しくしくはひとりとをもちゐぬ

本 問してよめるうた也本ニ
海のことにかけてつひの無心浦風のうた也世ニ
本 義ハ海中の小船ニ樂をとと歌あつけよ八雲の後風 平慶歌
心なれ和よ人をつけ人ハ
あとれなり

○難波人いるあるえにて持てそんあるのうたに方をつてて
本の 徒めを心冷てて歌ハ難波方をつててあんとを志
山本ニ幽玄ニ所の方ありを色をうりあるうた也ハ
きさらくうたうの面ありてをつてい波のたくつてうたの
あれてをよしひるよあるなりうへ

後成

○あさ山めの歌みうめ信ニ面へつてあくさのく面を為ひめる
源氏ニ云心代よりあるうとあり
引信ニの清よりうてよ方のうたのうつをるれ
紀の方りくさの後い云ハ
なぐさのを面をいうくさまぬとを心よをうをうを人を
いうくよいてをにをきなくさかくふうるをのう
へくひとれをそれなをつきなくさ行ふうくけう
めくを心ありなくくさまの
まをしてうくきなりうよ人の後里のうあ人し

憲子二

○ものゝ[illegible]に[illegible]人煙さよ[illegible]雲のそてうつ[illegible]
[illegible]とい[illegible]の[illegible]の心[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

後成女

○あひしりかまくらの火燒うめてきりのいそよりうつ[illegible]
煙いそよくゆりとはむもぐまてうるゆもちりしひの

定家

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

しきるあれはこそ山のあなたにもうつりのあれは
をみなへしのいろにあらはれにけるものをとあり
をみなへしのいろにあらはれにけるものをとあり
いかなるものをかうつりのあるものをとあり
一度いろにあらはれにけるものをとあり

○おなじ紀友貫のうたしらのきよしうたねをかこの
なのあるのをいとうつくしきをとあり
をみなへしのあるものをとあり
をみなへしのあるものをとあり

拾遺殿

月ゆきすぎてとしをへぬるをとこをやあはれみくるしかるへきをとあり
をとこをとこすぎてとしをへぬるをとこをやあはれみくるしかるへきをとあり
をとこをとこすぎてとしをへぬるをとこをやあはれみくるしかるへきをとあり

○たゆうあれはそれをとりてうつくしきをとあり
をとこをとこすぎてとしをへぬるをとこをやあはれみくるしかるへきをとあり
月ゆきすぎてとしをへぬるをとこをやあはれみくるしかるへきをとあり
をとこをとこすぎてとしをへぬるをとこをやあはれみくるしかるへきをとあり

○たゆうあれはそれをとりてうつくしきをとあり
をとこをとこすぎてとしをへぬるをとこをやあはれみくるしかるへきをとあり
月ゆきすぎてとしをへぬるをとこをやあはれみくるしかるへきをとあり
をとこをとこすぎてとしをへぬるをとこをやあはれみくるしかるへきをとあり

月はこゝろも作りもてやつしひらくやうつるみのうのうのうのうのうの
[illegible]
[illegible]の作とゝあてゝ[illegible]あり

通光

○海ゆかぬ[illegible]はかりは[illegible]のそこそれ[illegible]
[illegible]
[illegible]

いろもうめいろくをもかせもうくいつるなうく事
さうやくをもれくをもよいきよいたんやもれくは
神のひろさをあらくといつるなり悪八あらるる
とうかしくあくぬとうけさはをなくこちくしてと
本ぐうん 本ぐうん 悪と悪逆ものとうふ 悪八心ありくく伝へさるを悪の
くくさのり後成つて 或人 物語りをれを悪逆な
悪やさうしさるをれ 悪人 物語りをれを悪逆な
れとあり

○わろうひなりきのりさをれのりてのりあつく年よりつくりめりるか
夜や 本ぐう 悪やさ悪やうすさのりさをれのりの物語りをれや悪やうん
ばかりのとひさくくりあり物語りは神逆の様なりをれちくろ

本とをありさをれとかくろうさよりをれだかくろうきとを
あり年ちくくをれりあくをすくろよりり

○高のりさりの神よりを等塩風のあるこいをれとかをれとかをを
引 引をれりのりさ書をれや塩やきの物をれ塩やきを成りをうん
神よりをこを塩風をあくくよりをくくあり塩風以
とをを神くよりをすくをあり物語りをくくこいをれくを
ありとりくをかなくくをくくをれくを

○爰にくくを見ゆうん和をを神のくちめるしめの袖乃言をこハ
ばかりかけさつくうりトの白へつをくくをくくを又
くくめれをを又をへるくをあり

大秋法門右大臣

実家

武士門祝言

たのめ置ていさちろ殿の秋はけて本のそふりしく君の面ひ
秋をまくいのちのまつをたらくよあのえあるをくえよう有れ
仏本弁さそのまうしいしろ心なるへ

藤大納言忠良

○つまこかたれぬくひまそやつつかぬ月をめてしろ雨の光
月ゝとひせんのてをくやるのてをなきるをと月をを
てるくさしよりかのるのーとそひーよそれを
るかくするの雨の月いつまるくをーさとれられ
月をもるくさまし　にくいくせむとひのこう
しろこをるこの白乃つからぬとなからめをそと
云ぬの字也指をとをあて

○くるくるあて世をやいたてぬ花の花をあるとみるく
このぬの字也本云のハ
本云 累代のつまるくこてーおより様いろうとさわいるー
本云 大方八月をもめてー見るぬつをれるのわひくあるめ

橘政殿

○ゆくまよられぬはあられくこをあ川神をよ和ちるのとをん
本云 秋の秋いを言をのの神のるあよ和泉式ア
ひ四人ぬ波の量をのるあるあられ出るをかるうえ
ひ四ぬくくるえ伯けるに
わるひたるくを波川世ぬをるいり様をとひう
めは神流ありたるとを為り和泉ぬアをいをーぬ
のるどるるんるろ字ぬ式ぬををを九出くくみ

[illegible]

○[illegible]

後[illegible]

[illegible]

[illegible]

命とねがひしかども惜しきいつる命更の流涙は
袖にかけるものなれば袖をいのちの
あらんかぎりとなげくにいのちもかぎりてと
あるよ思ひ合のちらんとあれば人は
袖をうるほすとなげくとかやこうとうさうとうの
心也隆信卿の心よ侍り

後頼

○草のやどりの草の露もとひ心やまくをあとかろうれ
たる草とは紙のことを藏はかくしもとひよ
とけやすくする草の露ありそくゆくいとん序の心面
のうよていあまりよあさたかうやこ流とひくて
そくめくあひうろうまうそうよう心の行くをあく

おろけたるとはうちとろとろとの心　ひくこんこん
はんあくあくはりとろ心よひくまはあくあく面白也

伊勢

○恋草は恋草の面ぬれいたれうこんきちはやはゆく
あるあるれこんぬれ紙ろうこれ恋ぬいたるよそこんも
ぬるくく紙をぬるもあくどーふうこんよつあくを
源氏物語よ侍ろ八とのおとーのあうを云也ゆうく絶ぬ
そくよこんかせうしこあのろ心を同ーこあり是八源氏云
のあるれこうくあうよいあうこうこんー

更衣源関よ在業平唱ヶ

○初雪の降ふる空をあうを同しもあるつる心ゆうひよ
ふるるくを同よけうふるつゆの行きそのはうはうのあう

世間多也法ゑうと付ぎしいろく又生出ぎろ海と云
何也それぞれ人のすんきとれこく主海ろかきよろ人
てゝありうつろと云河二ありおいわるかうしひいろと
業也

赤法清つ

○ものゝ〳〵ものゝとうしまのからろ略の相ろこけらこ今ろ和ぶ
略のくねろこと略い必燃相ろこと也ろ心
うゝあろろきゆゝく主うゝくまこのあろこつ
きけきうかといろこの知り海つひ大事の業也

指設殿

○又をこん私と知むのかりなを過てもろるまこの海かり
海いまう百く様い必まろこのみれしそれと春

○のあけかのくゆろさい余彼れしむやゆそ海つも
秋景その引父あひくしむもれくるれくるを
くをしゝいろこと云者也ものむのろたのころこ
字の心にあり海周わようくたのむこもたの
みゝをつひ海也ものくひいろこすこネ可思彼の
海者也

○庭よ生ろ夕業まの下家や業をまれ海知ろん
夕ろけろよとゆゆろの業ろて也業れ海ろあた

小倉法

○海ひいよ文のろ○のゝ主ゆいあもれのろいるの六
夕と意業ろ云者人をろこゆよひろて海

物おもはぬ人をこの夕べいやまさるいもぬせんかな
ねくらしうらぶれ入ねのうねを海と儀しかな
にくき大和夜ぶかしくしのこのこゑをそえてせんう
たをそらうらさわいあしくとぶりしてたて
あるうきのふと貴まをうかんと思うをせこを
それいあひとくあるみちなきいをくさむす
をあうくしこちきうをてさけらて
文めうるいあしきまのうちうせをめるを
なりたくひるくあくまて後悔あるを

清原元輔

○大井川井せきの水のまてつよくたのめ言けやいかに
堰塞くるをとめるをのありをてくしかしの彩也

まてくハ物なりとを義也

定家

○あちこちをくてき嵐のおをしをかをかをかをひをん
あくしハタよりをのなりむくしより人を絡事い
ゆくよりをうなりあのあ人の夕あをもをるひ
なんをくしをうをあをもをかををいをる所をのの
なをくしを晩風遺い恋とてををををあり

拾遺

○行人とをひをいまあいをををかををを山の端乃月
だくよをてををくをりにくををををり人のををを
夕をを月をいまををのをいをむやをををををた
のむを夕をまををくあくををををををれを道

理をつくしてうたなり。幽玄なる体。かかるよ
一字二字にくくるを心を弱くして和歌。千五百番合
"ものくさわらのく弱くるをしられくるまいのを

宮内卿

○さくやこのはなの風なをたをすすすきをひきそ
ぬるよはをとすすすきをひきそ心なき風
にこそまつとをとなをたをすすすきをひきそ
たをとなの色をたをすすすきをひきそ心をたをすすすきを
をとなをたをすすすきをひきそ風をたをすすすきをひきそ
をとなをたをすすすきをひきそ

鴨長明

○たのもしく人をすくふ神のまことにたのもしく人をすくふ神のまこと

人をすくふとは人をすくふとはいとしたしめるすくふの心
人なりとこのたなる文のはまの風のはしなりとは
とをなるとをなるなりとをなるとをなるとをなるとをなる
れとをなる風の吹なるとをなるとをなるとをなるとをなる
たのもしくなるとをなるとをなるとをなるとをなるとをなる
なるとをなる人をすくふ神をなるとをなるとをなるとをなる
也とをなるとをなるとをなる

後京極秀経

○今宮とは社をなるとをなるこの名をなるの月やこのもとに
とをなるとをなるとをなるとをなるとをなるとをなるとをなる
なるとをなるとをなるとをなるとをなるとをなるとをなる
あやをなるとをなるとをなるとをなるとをなるとをなる
なるとをなるとをなるとをなるとをなるとをなるとをなる

心ゐるてあせこやうの御口伝也

武子内親王

○雲まつと絵やをりける風流なれ
雲こすいねやをいてゝ小世界秋のよ書いとくこと
月のみち出る月まつとゝ人はつひく雲とゝろさして
山の二ゝを本意にこゝあり月をゝ人絵りこゝ番よ
四人と知りいてゝかゝるゝ月をゝ山のこゝに
やすらゝくゝ法ゝゝゝゝ雲をとゝ絵のせうとなり又
雲本の戸とゝつよ絵く板と前秀句のゝをあり
うまゝこの戸ハゝゝゝゝ板をゝ
ゝゝゝ
雲やこゝあやゝゝむのいさよひよ板の板をゝひよねゝ

○ゐゝこの物ゝゝゝの男むゝまゝ取ゝゝ雲ゝの月
ありゐのゝまゝゝくゝゝゝゝゝゝ忠ゝゝ
ゝのゝゝゝく抱ゝせゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

定家

新古注三

古今二首のみちとしひしりのひとりの言也

安法師女

○物言の秋風ふく荻の葉のそよぎもあらぬ我ぞ侘しき

問云よさ象院はこの言とはけうの時人しくとと
せられたりとあり又ものと云ものとあり秋風
秋風ふく荻の葉のそよぎもあらぬ我ぞ侘しき
とは人のあはざりしをうらみてうらみあり秋風
うらみてとりのまりしく中ゝとい書伝の心有
又てもふうとの心あり天中の秋風をいふとも
書伝をあらはしうらみをしく以秋風八荻
とをいはざりしく中ゝ書をせめうの也うのこ

そく人のうれはしくむすぼほれをかなしくうれを
はしくこゝろこの也

家持

○足曳の山鳥の尾のしだり尾のながながしよを
山の端のいとしきかなしきかなしきかなしき
人のいもとをはなれてやまとの国にいまだ
なるべし

近喜行幸

○赤駒のあるてよるのみてられつゝ
はしりのとゝ河の面をなくとゝ也
こゝれつゝ川のとをとをとをとをとをとをとをとを

さもあらばあらん

○前関白太政大臣

おなじくこの世をあいとひあいせよ
ものいはぬ人のこころをもくみしれ
てこの世をのがれてつくづくとこの
世をあはれとおもふものかな
もろんさしてとかりひあくせくとこの世をあく
りんはんなり

○あたらしき人の侍りとかねてうかがひ
きこえしかばうれしくたのもしく
とはいはんとおもひしかばいつるなり忘れぬ実
侍りしかばとくとくせ侍とありしを

○つくづくとこの世をあはれとおもふ
侍りしかば門流かなしく
ものもとめてこの世をあはれとおもふ
百年の命はかりなくこの世をあはれ
こころをかけるまこと田法師こそ
彼のなげきをまことにあはれとおもふ
これをまことにいとしむべきなり

殷富門院大輔

○行くすえとおもふ人のさきだたんこそ
なほなげきなれ

[illegible]

のちの世をとゝのへんのつきなくうらゝかれぬるを
なごきあとゝとゝろく命のあれてこゝろへをつく
ゝれ給ふくゝもゝ行ゝこゝろをとゝゝをわ
ゝゝかゝきるゝ行ゝこゝのうれいしゝゝ守ゝを
ゝゝゝゝゝゝまゝゝゝ気也ゝゝゝ方也

慈齊四

伊勢

○[illegible]をゝすてゝこゝのゝ[illegible]のつゝゝゝを物と行ゝゝゝゝれ
本書[illegible]ゝゝゝ心やゝゝよ[illegible]めゝん 本々、
ゝゝゝゝとゝゝゝゝゝゝ

人をうらみくるをうらみゆるしくるをうらみ
月よをなくさむ涙をあり又心をいるまもむかの
みるりさるれこをなうめあらるくらるれ月をくのゆりれ
やくいりるめのくとひ抜しるる不感情
心やさしく面をるる

八條院の倉

○墨絵の月多むかの小歩くさ分に月に帯ゆるひとの面け
月をおるめわるるれしを絵とるくくもしくゆ
くるれる月絵るるあよるれ絵んるれ
のしをいくるを月よ面ゆるは月よるれ
ぬるるり

月秋の人面るかさ墨絵をふるんとひるをねん

通貝

○今あんとちるるしくゆめかくるるを西の月
月乃はるるをよるるめはるるくるるくたのめ
て面るしるの人長の月やるに抜るるくなるるて
秋の月をるるよるの秋の月よはるる絵をの絵
るるし秋の月るくるるるのあるをる
なるるる長のくくるのゆくるをるれくるの秋
の月るくいあるるくくるるをおの月はくくあるを長
心とくめくくん秋よはるる西の月といる
月はるるるる心なるるる
とくくといひ秋よ長月のを角の月を絵月るる
長るくくといひ秋の長のるるるとるるなる

○ひさしてよれば月のひかりとちりそうて中やなる月の時はかりひかりくんとたのみくのちあるを、
なめれしまれはなまれよれ易りくまれ
なしいひく成こいさめたるう世まれもんのやう
にこれ待くはやうくいまくてめて人ちあひ
出るすのあくしやとそこの世間なりなりなり

菅原秀能

○今うれたのめあ月はめうてまるまれやうもきみの宿
源氏物語のようをうきの有のんくこめくようくんの
うひ枝たうあくとるんなりのみくあまてうと月の
ふんうかくよまめるとひとり手ふくとくれまうち

拾遺殿

むうゆんをうこまうくんくうくれくうる心あ
これ知うこの色
月うくんの白紙とめあ色の面よひとりやをうれのうの白
ひ五文字の切ちうちうなり

拾遺殿

○まうくやよ思ううひを更ちうさやうちうくう山の端の月
ばまうくはくいつるはうとかくこ云義世方の心八月出
はやうてとくうちうくうくうくうくうくうくうくうくう
まれんさやうよくちうくうくうくうくうくうくうくう
ゆくくうちうくうくうくうくうくうくうくうくうくう
山のうくうくうくうくうくうくうくうくうくうくう
いつる神世京切ちうちうなり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○松のとちかきうへ人いつまでかてゝ神こそ成月のみ

[illegible]

上西門院の女房の[illegible]

[illegible]

[illegible]

○[illegible]

通光

源氏末摘花の巻[illegible]

[illegible]

○[illegible]

宣家

[illegible]

○[illegible]

[illegible]

○[illegible]

[illegible]

○[illegible]

[illegible]

○[illegible]

[illegible]

○[illegible]

[illegible]

○[illegible]

[illegible]

○[illegible]

[illegible]

○[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いとがゝくかれ〳〵よるうゐるとゝまり

拾遺歌

○思ふねはあめうちしをれあり紙しをさあ庭の松風
面とふゆるる雪の世はい恵よ深あるまなり
雪とゝ結よりせくゝめる雪あり　氏あハ
たのむさへどそ雪ハ白さうへしふえん
やたのめをそつめをそついとるゝさるゆゞと
思うへしくうちめくきよ庭の松風をさ
けそれをそ雪むちやうあり　さて吟する
やめと心あれ松のとゞのそうよ云る　彩　丈　詠　骨さ
いまうる

有家

○行てたゝうしみゝと雪ハきに松風うゝ
川すまさ三ちすう家のすゝをゆゝめうゝさ松の風
さうしあゝしたゝもうゝ人分ゝうのをとなる

西行

○あれてそうゝ人のをとゝあるうゝ松をの松の風
いとうゝ人いうゝ松のゝ雪ゝ雪ゝうのゝを
あゝれゝくゝひゝをなくゝめゝよかゝとなり

武士同歌

○今ゝ心のかゝうく物紙ゝうゝをかゝうゝ花の風
大ゆゝねゝいゝ花のゝうゝをくゝるゝをゝをゝれ
やゝうゝ松ゝうゝ風の雪ゝよゝあゝうゝをゝ心
にけゝ侍ゝ沒ゝ才ゝよゝうゝくゝうゝて花の雪風

のきとたのこつろすを昔は成こつろとなり心の
ゆくこころにこつろけざるなり詩の言葉にいとよ
こつくとあらぶるくひせんうこをもさ詩こと
ゆくふ面新さらこひくやるこをもくうう
こをあり

○八月きくはつるやくの桂中人西の中の言の桂風の秀
こひこころ秋中の桂風ふ桂月こくをあこ風を
ゆくく奥よ家伝りいけをうよこてく
さこしこころ桂月ふらめおゆゆ月れい分行を
心よこ秋りてこるの月をわけくさくどこころ
海のこの也桂風入竜脳といくなり

桂政殿

○黒八のをこ秋しの月きこ庫のあこ月面て分ふこの桂風く
隆不遇ここ云彩也氏彩をふ桂ふこよ
まころ也こくを月てい月まてい庫をこぶこあこる
きこよめ心をまめやこよ伯つこ月みまこれく
より手をてこるあけくここ月ふくおこ
くこ伯れこ月こくあをこくこ庫のこ月こ
外面と同こ桂風の言のこ分をこ月こ
こあり本こ

本ノ
本桂のすきまの風をこあこよ分ふこ月の月彩こ

大上天皇

○黒八あを西尾上の言れをの月こ伯ここをを昔こ月こ

人を思ねるる時いかなる方をかうらなうらくるるらくらくるるらくるるらくるる

しらいかさてくなりをたるうしーあり今文字切
ある心なり

秀純

○思ひ分かるる心のなり海くらーいそれをかさ落れ
山の宮家ゆもさくくしかりうしー袖英ありしと
世をもうんでつるひの物うきかぶへるらーいつきこの
あーこをうんるよ行くもかくふうきこのうれる
つるひのたくひ世をもしもなくさむやく分入
てうんるよこのりくいあるとり我ひ縁そこと
あくかうきこのあしーといつる也世をと恋極の句
なるんーーこのあくるこの也

宣家

○消えぬ人の行方をよみとこかーのこりの上句
社をあるをめる人也分代あるーーと分をあり
海ーーなり人のこりをしくうるくーーを本枝の
くなるふはやらぬ嶺の分れ消くくをの代
行ふるーくよりあるくいんのうる
まを代をさうひ行る心ことりしるる家也

舜蓮

○哀人を林のうきをえめんうみよるれひーのこる
人のこりの林乃きーーこふ風情をたけしくまを
海くなるこをるるを林のハーーこをやえめんれ
いーりもーを林のうくくりくくりくくりくくる
くくみをけるよりゆうこをこりくのあるる

を拾よりあつてよりあつてよむ事
打りく侍り

慈円

○我ひと庵の村萩うちれくるかぜ紙を拾乃ゆかしくれ
はかの文字物よりまつ心こそ思ひ出る也拾を来て
ありく庵の村萩をうつかまてうちくるかぜ
ちひのこゝろをうやうよりつゝ侍る
人をとゝ分やとゝいとしくをうつ分を
うらみしてよりまつ代をくみく拾の文を
いひまくたる事の世を経てあり不思議也
をくあるこのなりゝ義ふ
づゝこゝをとゝひとれ系有の事をひらかれる

太上天皇

○袖の露をはらはぬ色にうつろふ秋の木ゝ
紅葉の心ゝありゝ人の物ゝ侍りけさとま
きはゝ袖の露をく紅葉よりなるゝ也侍る
とゝくしゝをゝ人をゝ紅葉よりなるゝ也侍る
ちくろもこの心ゝかゝりくしくゝ袖をあら
ぬるとよりつるとゝ人のつゝ侍りゝ袖の露
をゝいつゝ打りゝ

定家

○むすびあけこゝろ心ゝやに侍りけ有下乃をゝ紙
をゝよりゝ同歌也歌也侍る歌也侍る

あれてを見ていて屋根屋敷のなかをかいくぐり
心のうるるるをとどめけるまで落葉ばかり屋やく寒風
袖はとこうしぬるものあれてゲラトのるのくゆうを
かくるを也ゲラ成るの也

家隆

○ちらばかり分ひ一袖をはかるまとを洗うるをれと秋風
たうひをこれ一とちるうるるの人の袖ようを秋
風のまう袖をかうかをいかられ一をいつり秋
風たうくいを落をそくるの也秋風のうちくをより
秋袖をとをかのたくとをまうを也ウ袖のはをう
とい海のうを也をうゆをれといんのたのめをる
ゆうべをうるるをうをうをものめをいるうを

行ひつまをとどめたるるの也

後成女

○露ならぬ秋の袖のひをはくをぬ爰を強る屋新
新屋をうをまるくををををくををくをうる
又いをんをとをれをゆをも付すい出されを秀の爰
爰也おりかををるるをなるを一秋のむを一をい
をうををくを郷一かをを園のはゆををいをひ
はを一ゆ今いをれををむをを一をををくを爰を花を
爰ををををを

○心もしらぬ人もこそあれ三輪の山杉のこずえのはるけきを
こゝろを物ゝとして道理よりあり
「紫式部日記」に「三輪の山をとあはれとおもふ」とあり
「三輪の山」の歌は古今集雜上に「わが庵は三輪の山もと恋しくは訪ひきませ杉たてるかど」
とよめるよりいふる也心なきを心なきとして道理なる也本文の
心なきこゝろ也さまざまあるべきこゝろ也
ちさこゝろ人ハ人ハ人ハ格の情をもつてあり
高恵の心本文の乃れやうあり也

○ゝゝゝくしもあすはゝゝゝ

武子門歌

人をゝゝゝ

をもくるしくなりぬるよと思へ心のやめく時の
後のなぐさめとなりぬべし神の渡のひさしわりくるま
の高りさかりのやうなる世なれば歎くとも甲斐なしとて紙に
おりくしに夫事の高のとく

定家

○弱くるるかなしの心の浦とおもひのうさはかりに
西の山のひくるもしらぬ人の心のとをみるく

雅經

ふりにの面影をめよ清見ヶ浦の波のかたちに
清みんと思ふの高なるなきこそあるなりけり
とてよりのいとまなくこそ高ハ人をとも
ひとりものなれとなりぬ中とめとこいろ神の

世をさこうといふる上の高のさきどくあり
拾遺集
むねハ富士の煙ハ清みんと思ふ雲のなれや煙を波をたぬ目うるに

後成女

○高ふかり河の底ハ神よ秋のけくこひ一計を清と中一面の
紙ひていひ高ふるとをあらるに本家やりをくえまるれ
あさうる波あをんとちをうつまとをさいるくして
をくれくり神よ高とあり

定家

○白妙の紙のおれよ高なりて月行むをの秋風うるく

白ぬの紙ハ[illegible]
[illegible]の紙とは[illegible]
紙といふ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
心をもつへ——

○[illegible]

家隆

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○萩のうへの露のうつるをもおつるかと心をつけておつるかやうくなりうるをもかつるとはおもはぬこゝろをうつり侍るとうるをこゝろとうるやうとうるのうるを侍れとうるをもうるとよめる歌の結也

○ふるさとの花の枝をたゝんの心ろ枝をもらすなく花の中よ萩ハ枝をもらすくるはるくうるひうれをもはなちくれたるを侍るくうるひ侍りうるをもうるをもうるをも

なり　清河八人のよんとうの仏名　やまを　字　玉
豊玉姫の火火出見　見る　へ　乃　このうち
あるいはひろうあるいはくいてしてえつてそひたるひろう
ひし　文字同　伊勢物語にも心なしとわし中ぬ
二条后のあひたのうの間にふあるの間にさうう
なきいろうけるさのみうるさのみいとんとかの
ち　歌のうちにくいてうろひの海
うちうた　さうなり

○浦のたくをしかのをあり　同
縄をとへよたとへ風をとれなんてはれかたきの
ハせよたくひあるひうるさまへなひうあるり

なれくいつくをうのひかりふくをなひくるうは
あるの海　こをくいてまくろも宮殿を
いるよ　笑　此をしあひかをを縄よりひくうる風をあ
ひあるをあるうこのなり

○若松とあにむまひてをあるうんめるくいこの中をたのまし　同
緑松とくんはうあるかをほめくいつくんなりひ家
たくるのこの也ほるくこうるこの也ほるいこの
中ようりつくさ出るあるりされをたひくを心をあ
とあるりをしめくるくいこの中より出るあるそくを
たのくうくをなるうのくくわくうのくるる
人よよいねんろうなるろやうあれをこの心をを

生ぬるのあれた絵くさうへくさうをとうんと
なり云の中より出るものめるこをやうにくも
れくもりくうくーとそこの也

同

○これをちうなきてうくへよしひられ〜今こそこにあるこの
我をちうしいてみをいたりうのくくみをと
詞りうれをあくくとにくうんためくもちうよよ
そくていつりをもしひらまーはいくのあきーと
なりをこうくへをうくくく

○[illegible]

○[illegible]

武士門親王

○[illegible]

○[illegible]

弁

後成

○[illegible]

[illegible]
心切也　一酩ちの一　[illegible]

相撲

○[illegible]

馬門侍

○[illegible]

人加茂の[illegible]
[illegible]

祭主猪狩

○[illegible]
[illegible]

伊勢

○[illegible]
[illegible]

左京業平

○[illegible]
[illegible]

うまりぬる世よりの人のれいのきるをいろ也てるる也
そでこしあれて出ぬるよりうゐ中ーきを今後
とゝよりそもんとうこうくるあり

義原惟成

○ゝとゝ毎ゝゝゝ

○とうはいつてとすまや白ぬの口紙をおかくそこなれ
いつてをものしくはれどくの心をかうにやく
おかつてのくをくいとくいとくいとくなり
我こゝろ
我よりひとおもうへはの白物の袖のうらの一点やうなり
されやいはうやなり形改なり
ゴをゴ指のう紙をおしられをすすをとされやゴれを
そくゴありゴををくゴなり又為色ゴのう
海と恋ををくゴをゴのの白ゴくれくゴすをやあまくゴを
とありゴるとゴれは立音通をゴるなり

同

○むくけのけまくはくさあて取とゴをくひくゴもゴん
あけまくはくさあくて取とゴのをあくて取はく
むくなくゴをくゴれくくゴゴ人と衣をゴくねて
袖ぬゴ紙云ゴくゴの心ゴ色ゴ取ゴゴゴゴ
あくて取とはくくゴはくゴくゴくゴくゴ
うゴるくくなり

同

○ゴをゴはくくゴをゴれをゴの為ゴくゴくゴ
はくくゴくてくゴゴのくくゴをゴぬ心ゴ
ゴのをくくゴくゴはくゴのをくゴ為ゴゴ
たのくゴくくくくゴくゴくゴくゴくゴ

同

○ちぶの雲の暗きよりのちぐもとそれ異ひとを深きあ
野もせの遠くふる雨あるかぜ青雄暮天雷時
ふかみぐさ　　よれ雲をれくさ
暗きうれ雨あれむらひのこねよれたい
いとやたりとやうて弱きひくとこと弱きり
さていうあるてかるあり雲をいきりたるそと
れ雨ありけるの暗きのちけ八代水れ雲のかく
降りてふくゆへけるとさく暗きのかくみ
さいつりそれよつそるたをそたくそうる
さんとよめるなりぶ　たるの暗きのちくえ
りんにくのとくれいみなる

同

○大よとの松にふるとあるくよるみくのもゆるるみくれ
うのうちの松のそくいうりくまふ
松をうらみくゆるうあり松にうしむきゆく
なるきありそれをありひらの歌をとうえあり
にりくゆ歌えのれ分よいうをなるきるの歌
うくみくのこのうに法ぶるぶくくうみ
まるなくくしありひらくあひまを
人しまめるあれんどてて海也のこのてを
心を付くくうくし

同

白波八きさうくまりを海のみるめ八ぶんと皇
杉一中小ぶ雲のあるとくくよめくこの也さくく

まうまうらのうるめいかくむとは香をうけ也
あんとはなくしまりもまいちりめく
ちりなるゝ紙ちりすまとはたのうらふせく
しめるなくしし又法白波ハ立さつくとも京
波のる也和のまうるゝこの義也しるみをうる
うを也ちりぬへをたのまんといつりうるめとは
人をうるめ也
みるめうゝ人めるゝ波のまるめ和さん波の下に移めるる
うよめり又人をうるめよ為もひめるる故り
ちりすまゝ小又色ゝきなハ立めくしゝ人ゝかめ世にすまゝ
綿まゝ紙ちりよ限ゝりせハなゝ紙ちりを面よ立しゝ和とを
うるよめり

同

⊙うゝこりかくハみるの法ちうくうらめくうるあれつる
きしくりまとハうるうちひけたるあ也ゝ孔と公落の
まのゝくりなりそれを淡の字よりひけたる也
紙ちうけたる心ちうかこれ面色あく成たる色
心也法るみくゝ人のまりきのちげしくあち
けゝとゝ紙也ちうる法くくうくうくふたまりなりひ
ちうくうくうくてめうゝくあくうれたる心ちう
俳勢物語ちう
いうくうくうくてうあるゝ人るゝまくかふふかれて
ひうのゝくうなうたゝ今よ
大内ハゝみをうれくゝ世と海ちうよるめうを医

鼓の字濤の字もかくなるべしと也